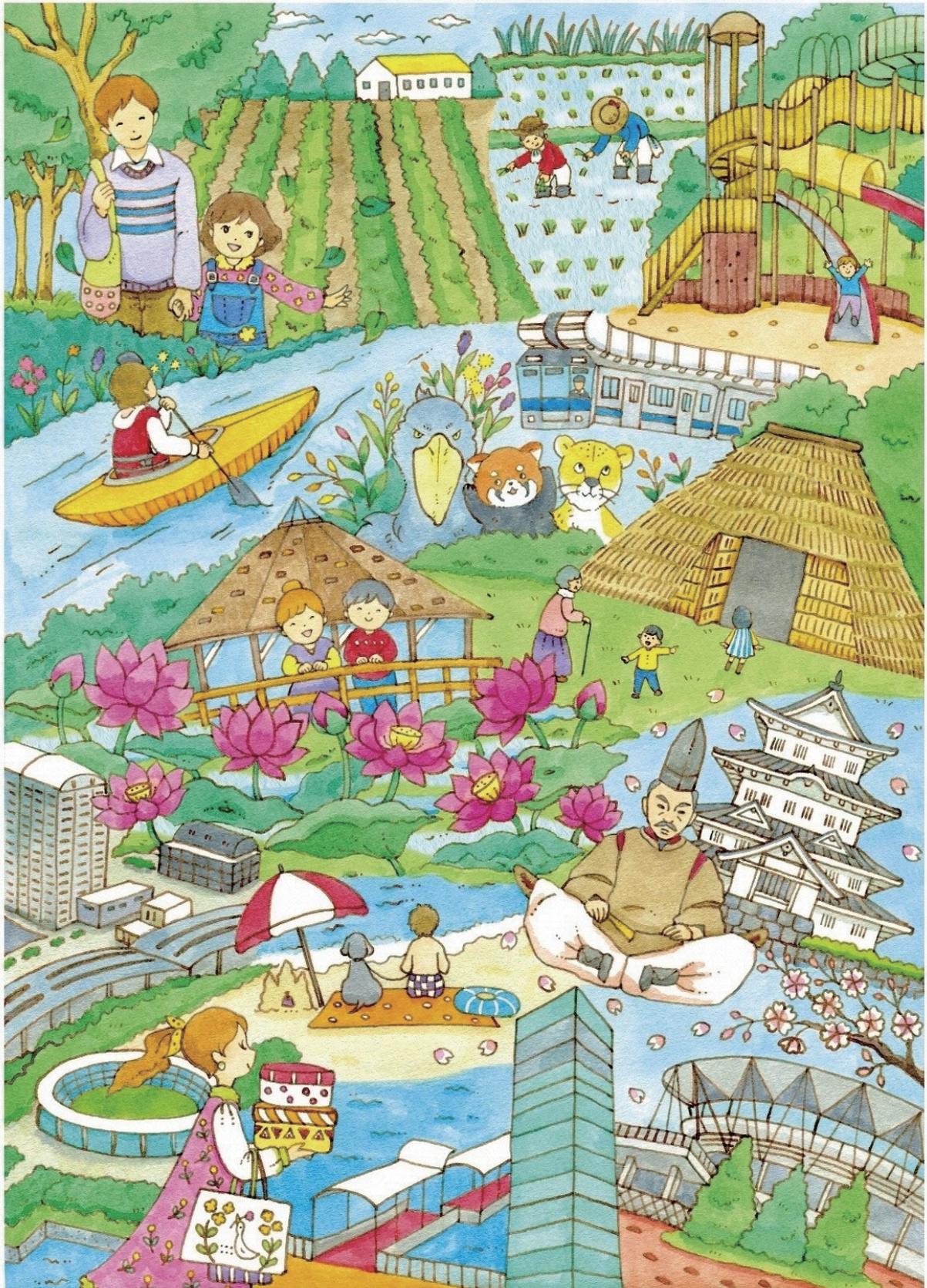


千葉市緑と水辺のまちづくりプラン2023

概要版



縄文より続く 住みやすいまち 訪れたいまち を次世代に

令和5年5月

千葉市

1 千葉市緑と水辺のまちづくりプラン2023とは

千葉市緑と水辺のまちづくりプラン2023とは

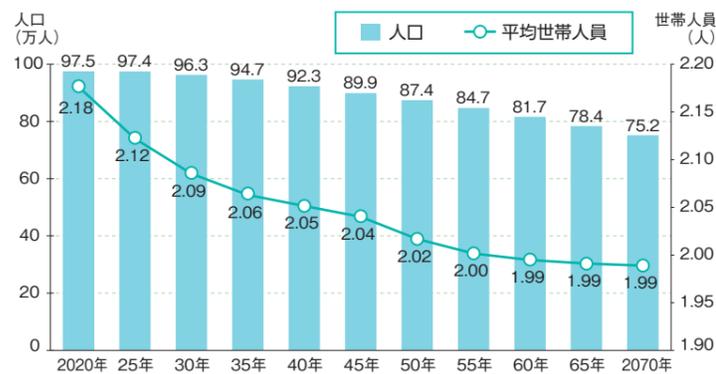
- 都市緑地法第4条に基づく、緑地の適正な保全及び緑化の推進に関する法定計画
- 千葉市の庁内においては、緑と水辺のまちづくりに関する部門計画

計画で示すもの	千葉市の豊かな緑と水辺を次世代に引き継ぐため、市民、団体、事業者、大学など、多様な主体と行政が連携・協力して取組む、本市の緑と水辺のまちづくりの基本方針
期間	令和5年度(2023年度)~令和14年度(2032年度)までの概ね10年間
対象	千葉市全域の緑と水辺

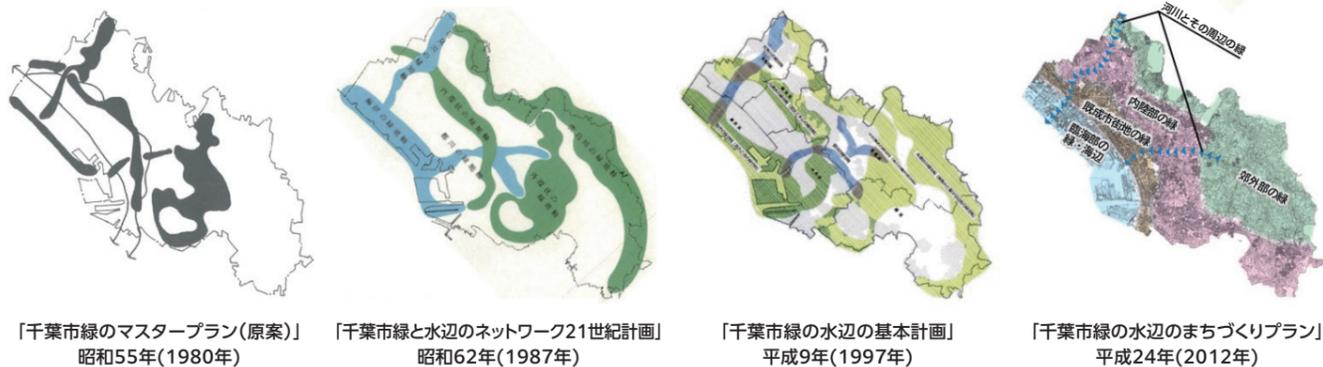
人口の見通しと今後の地域社会の状況

人口規模縮小に伴う需要の減少は、公共施設・インフラの維持更新、統廃合、民間サービスの撤退など、地域社会の様々な分野に影響を与え、都市の利便性・快適性の低下が想定されます。

今後の緑と水辺のまちづくりに関しては、これまで以上にストック(資産)を活かして、地域社会の課題解決に資するような施策の方向性を意識していく時期にあります。



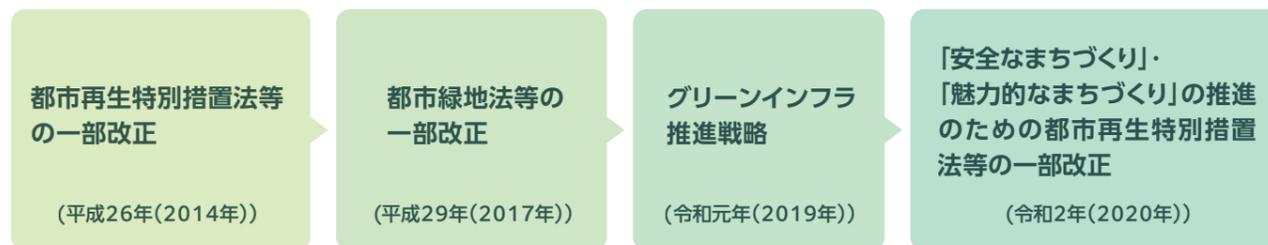
(歴代の計画:緑と水辺のネットワークを意識)



2 緑と水辺の現状と課題

緑と水辺のまちづくりに関わる国の動向

持続可能な都市経営に向けたまちづくり、民間の知恵や活力を活かした緑の保全・活用、自然環境が有する多様な機能を活用し、持続可能で魅力ある国土・都市・地域づくり、「居心地が良く 歩きたくなる」空間づくりが進んでいます。



千葉市の緑と水辺のまちづくりを取り巻く状況

持続可能な開発目標(SDGs)やカーボンニュートラルを意識したまちづくり、空き家や空閑地がこれまで以上に発生する都市スポンジ化への対応、自然災害に備えたまちづくり、緑と水辺のストック(資産)を活かしたまちづくりが必要となっています。



グリーンインフラとは?

グリーンインフラは、社会資本整備や土地利用などのハード・ソフト両面において、自然環境が有する多様な機能を活用し、持続可能で魅力ある国土・都市・地域づくりを進める考え方です。

千葉市においてもこの考え方を取り入れ、取組を進めていきます(詳細はp.5参照)。



緑と水辺の現状

緑

- 千葉市全域での緑被面積は13,217.9ha、緑被率は48.6%。
- 緑被地の大部分は、市東部の市街化調整区域と主要河川の上流部にまとまって分布。
- 戦後の都市の成長に伴う市街化により緑被地は大きく減少したが、近年は約30年間にわたって、市域の約半分を緑被地として維持。

水辺

- 海岸線は約42km、稲毛～幕張の総延長4.3kmの人工海浜は日本一の長さ。
- 13の河川があるものの、市街化や治水対策としての河川改修もあり、河川と生活との密着度は徐々に低下。

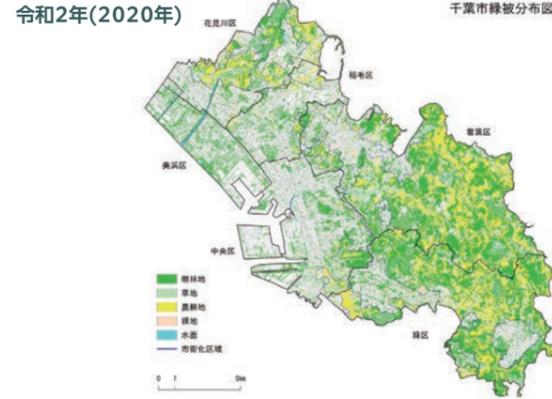
緑と水辺の環境

- 市東部の谷津田、河川、ビオトープを中心に、多様な生き物が生息。
- 夏場の地表面温度の傾向として、まとまった緑が多く存在するところや、海や河川沿いの風の通り道となるところなどでは、温度が比較的低い。



生き物名の後の記号は、レッドリストのカテゴリーです。
 環境省(2020) VU:絶滅危惧Ⅱ類 NT:純絶滅危惧
 千葉県(動物2019/植物・菌類2017) A:最重要保護生物 B:重要保護生物 C:要保護生物 D:一般保護生物
 千葉市 X:消息不明・絶滅生物 A:最重要保護生物 B:重要保護生物 C:要保護生物

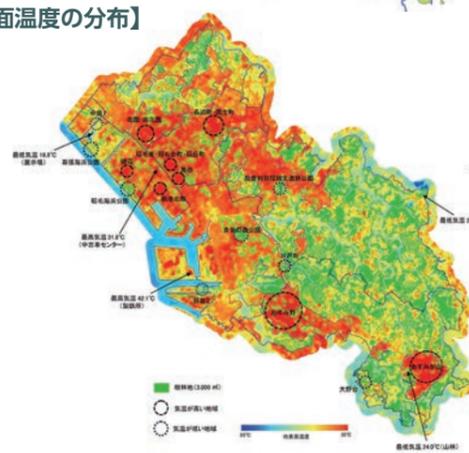
【緑被分布図】



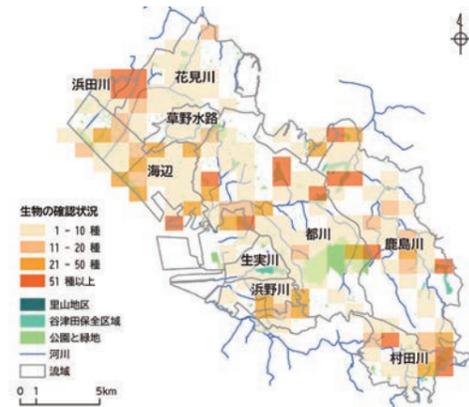
【水系・河川の分布】



【地表面温度の分布】



【生き物の生息状況】



市民意識

千葉市まちづくりアンケート (令和3年度(2021年度))

- 千葉市内の緑が豊かと感じる **約77.8%**
- 千葉市内の水辺が魅力的と感じる **約48.3%**

2021年度 第2回WEBアンケート調査 「緑とのかかわり」

- 市内の緑の量が十分 **約67.6%** 質が十分 **約48.6%**
 → 10年前の調査と比べていずれもポイントアップ
- 次世代に引き継ぐために充実させたい緑 上位3つ
 身近な公園 > 大きな公園 > 街路樹が整備された通り

2021年度 第3回WEBアンケート調査 「水辺や花とのかかわり」

- 次世代に引き継ぐために充実させたい水辺 上位3つ
 海辺 > 海辺の大きな公園 > 大きな池がある公園
- 街なかで充実したらよいと思う花の空間 上位3つ
 身近な公園 > 大きな公園 > 駅前の広場やメインストリート

2022年度 第9回WEBアンケート調査 「緑や水辺とのかかわり」

- 今後参加したい緑と水辺のまちづくり活動 上位3つ
 海辺の清掃 > 1つもない > 海辺での体験活動
- 参加者を募集する際の効果的な広報 上位3つ
 市政だより > ホームページ > 文章投稿型SNS

2020年度子ども・若者の力(ちから)ワークショップ

- 子ども達から挙げられた良好な緑と水辺の環境の実現に関する提案
 - 防災や地球温暖化防止
 - ヒートアイランド現象の緩和
 - 生物多様性の保全
 - など

緑と水辺のまちづくりに関するWEBフォーラム (令和4年度(2022年度))

- 市民意見から把握した主な観点
 - ・ 広域連携、利用のネットワーク
 - ・ 暫定性・暫定利用、デジタル技術活用や観光の視点
 - ・ 身近な公園の利用促進に向けた取組みの充実
 - ・ 民間(住宅メーカーなど)と連携した緑を育てる家づくり
 - など

緑と水辺のまちづくりの課題

災害リスクの増大

- ▶ 新型コロナウイルスなどの感染症の拡大リスクの増大。
- ▶ 地球温暖化が進行し、対策を講じない場合、風水害の増加や生態系変化による食料不足などが懸念。

テクノロジーの進展

- ▶ 設置から30年を経過した公園が半数以上を占め、誰もが活用しやすい状況ではないこと。地域によって公園配置が偏っていること。
- ▶ 街路樹の大径化や木の根による通行・歩行環境に支障があること。

人口の変化

- ▶ 公園などでは、施設の老朽化に伴い更新が必要だが、人口減少下での財政圧迫が懸念。
- ▶ まちづくりの担い手不足や担い手の高齢化が進み、既存団体の弱体化が懸念。

持続可能な開発目標に向けて

- ▶ 緑が消失してきており、土地所有者などの理解を得ながらの緑の保全や緑化の推進が課題。
- ▶ 緑と比較すると水辺への愛着が持たれていない。水辺のなかでも川辺への愛着が持たれていない。

3 計画のテーマ

縄文より続く 住みやすいまち 訪れたいまち を次世代に

縄文の昔からはぐくまれてきた豊かな緑と水辺というストック(資産)を引き継ぎ、住みやすく、訪れたい、持続可能なまちづくりを次世代に継承していくことを展望します。

本計画で重視すること

グリーンインフラの考え方に基づく取組の推進

9つの緑と水辺のフィールドが存在することや利用されることにより発揮される5つの効用をまちづくりに活かす取組を進めます。

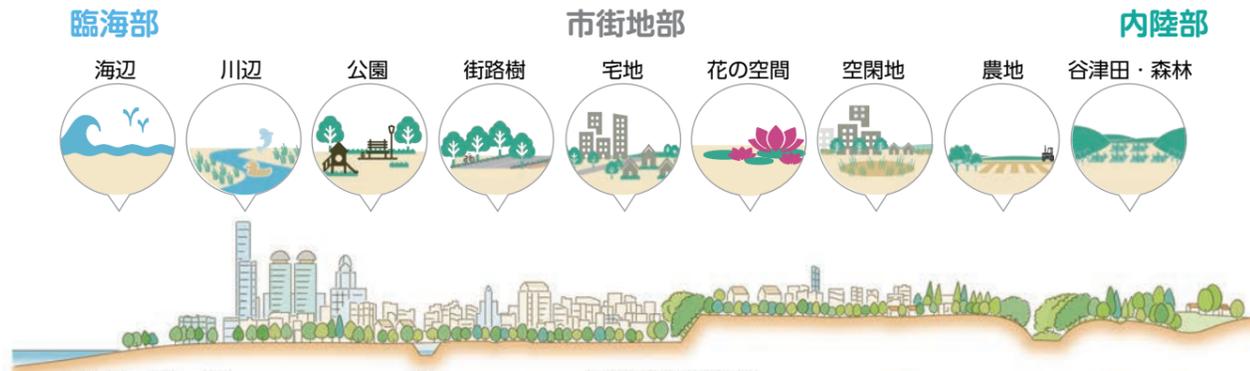
河川を活用したまちづくりの推進

臨海部と内陸部をつなぐ、河川が広く市民に開かれた水辺空間となるよう、河川を活用したまちづくりを進めます。

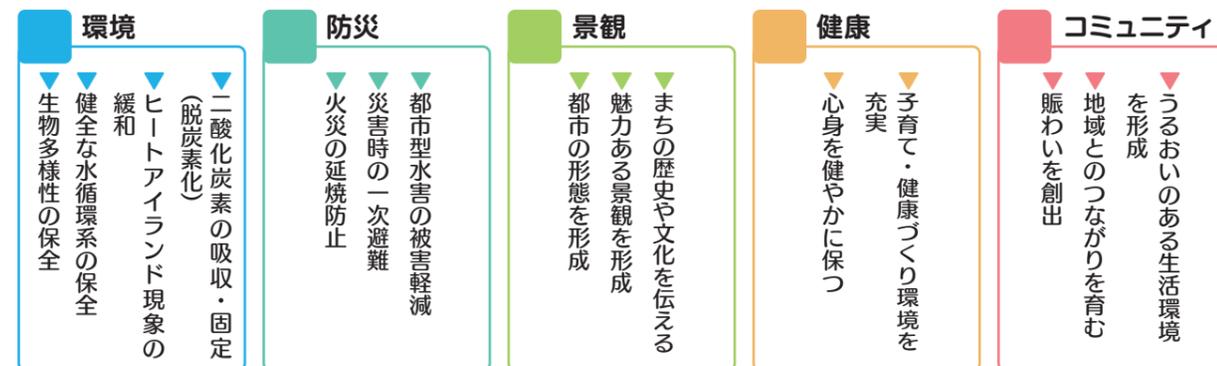
都市デザインの考え方に基づく個性と魅力あふれる都市空間の形成

今後の都市づくりの前提となる「都市デザイン」の考え方を本計画においても共有します。

千葉市のグリーンインフラを構成する9つの緑と水辺のフィールド



千葉市の緑と水辺が担うグリーンインフラの5つ効用



大 存在効果 / 小 利用効果

4 目指す緑と水辺の姿

本計画では、以下に示す3つの視点において、緑と水辺に関わる人々の目指す姿や目指す緑と水辺の姿を示します。

緑と水辺に関わる人々

緑と水辺のまちづくりに関わる人の輪(ネットワーク)を広げます

- 本市の緑と水辺のまちづくりに、市民、団体、事業者、大学をはじめとした教育機関、そして、行政などの多様な主体が携わってきました。
- 人口減少・少子高齢化が本格化していくなかでも、従来から緑と水辺のまちづくりに携わってきた人々が無理のない範囲で活動を行いつつ、新たな担い手も含めて、互いに協力・補完しあいながら、緑と水辺のまちづくりに意欲的に携わる人の輪(ネットワーク)を広げていく姿を目指します。



近隣レベル

生活圏にある緑と水辺との関わりをより一層はぐくみます

- 生活圏(概ね徒歩15分圏内)には、公園や街路樹を中心として、様々な緑と水辺のフィールドがあります。
- グリーンインフラとなる緑や水辺に関わりを持つことは、心身を健やかに保ち、日々の暮らしをより豊かなものとし、地域にくらす人だけでなく、野鳥などの生き物も生息・生育するような豊かな緑と魅力的な水辺づくりを進め、生活圏にある緑と水辺との関わりがより一層はぐくまれていく姿を目指します。



全市レベル

2放射・3環状からなる緑と水辺の骨格を次世代に継承します

- 縄文からの歴史性を伝える緑と水辺は、本市のまちづくりの基盤となるとともに、グリーンインフラとして様々な効用をもたらすものとなります。自然環境や都市政策を由来とした2放射・3環状からなる緑と水辺の骨格を維持し、緑と水辺のストック(資産)を次世代に継承していくことを目指します。
- 緑と水辺の骨格上に政策的に配置してきた大規模公園の魅力を高めていくことで、本市にくらす人や本市を訪れる人にとって、すごしたくなる緑と水辺の11拠点づくりを目指します。



2放射

- ▶ 花見川沿いの水辺軸
- ▶ 都川沿いの水辺軸

3環状

- ▶ 東京湾沿いの水辺軸
- ▶ 内陸部の緑地軸
- ▶ 鹿島川沿いの緑地軸・水辺軸

緑と水辺に関わる人々に関する施策

近隣レベルで展開する施策

全市レベルで展開する施策

フィールド 1	フィールド 2	フィールド 3	フィールド 4	フィールド 5
海 辺  魅力ある海辺をはぐくむ	川 辺  親しみのある川辺をはぐくむ	公 園  すごしたくなる公園をはぐくむ	街路樹  美しい街路樹をはぐくむ	宅 地  緑豊かなまちをはぐくむ
1-1 環 防 景 健 コ 海辺の賑わいづくりと魅力発信	2-1 環 防 景 健 コ 川辺のアクティビティの充実	3-1 環 防 景 健 コ 多様な主体による公園活用の推進	4-1 環 防 景 健 コ 多様な主体による街路樹管理の推進	5-1 環 防 景 健 コ 地域ぐるみの緑花の愛護活動の推進
1-2 環 防 景 健 コ 「さんばしひろば」の活用促進	2-2 環 防 景 健 コ 川辺の生き物とのふれあい	3-2 環 防 景 健 コ 多様な主体による公園管理の推進		5-2 環 防 景 健 コ 緑化や緑の効能を学ぶ機会の充実
1-3 環 防 景 健 コ 海辺の生き物とのふれあい		3-3 環 防 景 健 コ 植物性廃棄物のリサイクルの推進		
	2-3 環 防 景 健 コ 花見川サイクリングコースの充実	3-4 環 防 景 健 コ 公園の活用促進に係る仕組みづくり		
	2-4 環 防 景 健 コ 川辺の公共空間再編	3-5 環 防 景 健 コ 熱環境対策や脱炭素に資する樹木の育成	4-2 環 防 景 健 コ 街路樹の適正化	5-3 環 防 景 健 コ くらしの中心となる地域での緑化の推進
		3-6 環 防 景 健 コ 地域バランスの改善に資する公園の整備	4-3 環 防 景 健 コ まちを彩る街路樹づくり	5-4 環 防 景 健 コ 都市開発諸制度と連携した質の高い緑の創出
		3-7 環 防 景 健 コ 地域の状況を踏まえた身近な公園の充実		
		3-8 環 防 景 健 コ 斜面地を有する公園の安全性の向上		
		3-9 環 防 景 健 コ 公園施設のスポンサー制度の活用		
1-4 環 防 景 健 コ 海辺の魅力向上	2-5 環 防 景 健 コ 河川を活用したまちづくり	3-10 環 防 景 健 コ すごしたくなる緑と水辺の11拠点の充実	4-4 環 防 景 健 コ 街路樹のある環境の雨水浸透機能の向上	
	2-6 環 防 景 健 コ 水環境の保全の推進	3-11 環 防 景 健 コ 公園の雨水浸透・流出抑制機能の向上		

フィールド 6	フィールド 7	フィールド 8	フィールド 9	フィールド横断 10
花の空間  清らかな花の空間をはぐくむ	空閑地  みんなが使える空閑地をはぐくむ	農 地  やすらぎのある農地をはぐくむ	谷津田・森林  いきいきとした谷津田・森林をはぐくむ	共通事項  緑と水辺に関わる人や場所をはぐくむ
6-1 環 防 景 健 コ 花のあふれるまちづくり	7-1 環 防 景 健 コ 空閑地の暫定利用に向けた仕組みづくり	8-1 環 防 景 健 コ 拠点施設の活用などによる農の魅力発信	9-1 環 防 景 健 コ 谷津田や里山の保全の推進	10-1 環 防 景 健 コ シェアサイクルを活かした街の回遊性の向上
6-2 環 防 景 健 コ オオガハスの魅力発信の充実		8-2 環 防 景 健 コ 農福連携の推進	9-2 環 防 景 健 コ 民有林の管理の促進	10-2 環 防 景 健 コ デジタル技術やデータを活かした緑と水辺のまちづくり
		8-3 環 防 景 健 コ 耕作放棄地対策の推進	9-3 環 防 景 健 コ 市民が立入れる林地環境の拡大	10-3 環 防 景 健 コ 生物多様性の状況把握と生息地の管理
		8-4 環 防 景 健 コ 太陽光発電下での農業技術支援の研究		10-4 環 防 景 健 コ 環境教育の積極的な展開
6-3 環 防 景 健 コ オオガハスを楽しめる環境の拡大	7-2 環 防 景 健 コ チバニワ(仮称)としての空閑地の活用	8-5 環 防 景 健 コ 街なかの農地の保全・活用の推進	9-4 環 防 景 健 コ 公共施設における脱炭素に資する木材利用の推進	10-5 環 防 景 健 コ 緑と水辺のまちづくりに関わる人づくり
6-4 環 防 景 健 コ 3都心における花のふれあい道づくりの充実			9-5 環 防 景 健 コ 樹木の生育基盤となる土壌環境(土中環境)の育成	10-6 環 防 景 健 コ シームレスな空間形成の推進
		8-6 環 防 景 健 コ 優良農地の保全の推進	9-6 環 防 景 健 コ 緑と水辺の骨格におけるグリーンインフラの保全の推進	10-7 環 防 景 健 コ まちづくりに関する庁内連携/広域連携
			9-7 環 防 景 健 コ 都市開発諸制度と連携した郊外のグリーンインフラ保全の研究	

魅力ある海辺をはぐくむ



現状



幕張ビーチ花火フェスタ
(千葉市民花火大会)



稲毛海浜公園
海が見えるレストラン



千葉みなと さんばしひろば



千葉ポートタワー

主な施策

海辺の賑わいづくりと魅力発信 環 防 景 健

幕張の浜、検見川の浜、いなげの浜、千葉みなとにおいて、官民連携で整備した活性化施設を活かしながら、多様な主体が連携して、海辺の魅力を活かしたイベントを充実していきます。

海辺の魅力向上 環 防 景 健

稲毛海浜公園、隣接する幕張海浜公園を含めて、海辺のアメニティ環境の充実と賑わい創出に資するよう、すごしたくなる緑と水辺の11拠点として、魅力の向上を図ります。



誰もがゆったりとした時間が過ごせる海辺

親しみのある川辺をはぐくむ



現状



花見川 カヤック体験の様子



花見川 花鳥橋からの景観



都川 下流部の景観



鹿島川 農地の風景

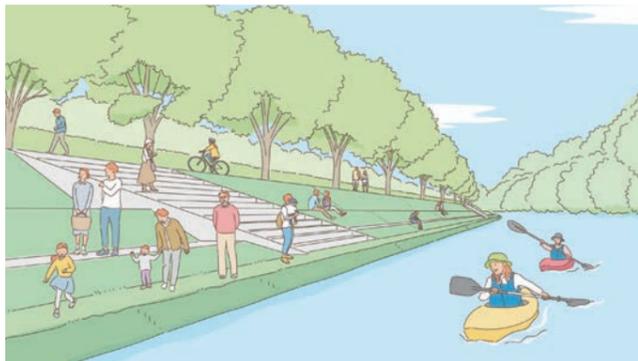
主な施策

川辺のアクティビティの充実 環 防 景 健

川辺の活用には先行的に取り組んでいる花見川を拠点として、川の水にふれあひながら、自然環境の良さを再認識できるようなアクティビティの充実を図ります。

河川を活用したまちづくり 環 防 景 健

都川、花見川、鹿島川の3河川を中心に、河川を活用したまちづくりの将来像を示す「かわまちづくりビジョン(仮称)」を策定し、河川沿いの豊かな緑と田園風景の保全や水辺空間の活用を進めます。



河川の良さが実感され、様々な形で活用されていく川辺

すごしたくなる公園をはぐくむ



現状



昭和の森 こいのぼり



真砂5丁目第4公園 サクラ



蘇我スポーツ公園
公園上空からの写真(出典:UR PRESS vol.59)



パークマネジメントの様子
(マルシェ)

主な施策

多様な主体による公園活用の推進 環 防 景 健

町内自治会、パークマネジメント団体、指定管理者、プレーパークの開催団体、その他意欲的な団体などとの協働でイベントの開催をはじめ、公園の柔軟な活用を進めます。また、専用園庭を有しない保育園などによる公園の活用を支援します。

すごしたくなる緑と水辺の11拠点の充実 環 防 景 健

すごしたくなる緑と水辺の11拠点において、とりわけ、千葉市が管理運営者となるところでは、官民連携で公園機能の向上や多機能化を図ります。これと併せて、誰もが公園を楽しめるようにインクルーシブな環境形成についても検討します。



賑わいが生まれ、居心地のよい環境が形成されていく公園

美しい街路樹をはぐくむ



現状



中央公園プロムナード



こじま公園通り



おゆみ野学園前



あすみが丘

主な施策

街路樹の適正化 環 防 景 健

木の根が舗装を持ち上げ通行の支障となっている街路樹については、歩行者や自動車運転者の安全性の確保や快適性の向上のため、「千葉市街路樹のあり方」に基づき、道路環境に見合った街路樹となるように適正化を図ります。

まちを彩る街路樹づくり 環 防 景 健

シンボルロードを彩る街路樹については、街並みや景観を意識してボリュームのある樹形とするなど、まちを彩る街路樹づくりを進めます。



花壇の手入れをする人や木陰を歩く人が増えていく街路樹のある通り

緑豊かなまちをはぐくむ



現状



園芸講座の様子



住宅地の緑化



緑地協定地区の様子



新千葉市庁舎の屋上緑化

主な施策

地域ぐるみの緑花の愛護活動の推進 環 防 景 健

緑と花への愛護の心をはぐくみ、個人や地域での活動を通じたコミュニティの形成、醸成が図れるよう、絵画コンクールをはじめ、地域住民主体の緑の育成、地域を花で彩る花苗の配布などに引き続き取り組めます。

都市開発諸制度と連携した質の高い緑の創出 環 防 景 健

街なかにおいて、都市開発諸制度により土地の高度利用と公共貢献をセットにした開発を誘導するにあたっては、来訪者や居住者が潤いのあるまちと感じられるとともに、生き物の息息・生育環境ともなりえるような緑の創出について、検討します。



緑化を通して、地域のコミュニティがはぐくまれていく宅地

清らかな花の空間をはぐくむ



現状



千葉公園の蓮華亭とオオガハス



3都心フラワープロムナード（写真左から 千葉都心 幕張新都心 蘇我副都心）



主な施策

オオガハスの魅力発信の充実 環 防 景 健

令和14年(2032年)のオオガハスの開花80周年を見据えて、魅力発信に係る計画作成、関連イベントなどの充実を図ります。

これと併せて、魅力発信に関わる人材育成を引き続き進めつつ、オオガハスにゆかりある都市との交流を図ります。

3都心における花のふれあい道づくりの充実 環 防 景 健

千葉都心、幕張新都心、蘇我副都心のプロムナードにおいては、団体、事業者、教育機関などと協働で、花のふれあい道づくりを進めてきており、来街者にとって、千葉市の顔として更に印象に残るようにこれまで以上に取組を充実していきます。

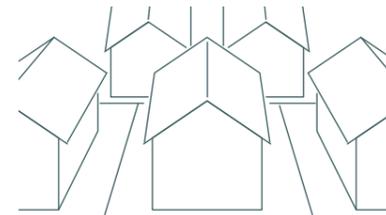


ハス守りさんがガイドする、オオガハスのある花の空間

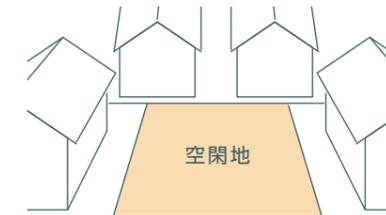
みんなが使える空閑地をはぐくむ



現状



住宅地などにおける空閑地の発生



空閑地

主な施策

空閑地の暫定利用に向けた仕組みづくり 環 防 景 健

土地の維持管理が負担になっている土地所有者とその土地を活用したい地域の住民などとの仲介をし、地域コミュニティの形成・醸成の場などとして、街なかの空閑地を暫定的に活用できるような仕組みづくりを進めます。これと併せて、この仕組みを積極的に活用してもらえるように情報発信を進めます。

チバニワ(仮称)としての空閑地の活用 環 防 景 健

子どもの遊び場やマルシェの開催、野菜づくりなど、地域の自由な発想で暫定的に活用できるチバニワとしての空閑地の活用を促進します。とりわけ、千葉市としては、公園の配置バランスを考慮し、公園代替地となるような地域において、空閑地のチバニワ化を進めます。



チバニワ(仮称)として様々な目的で活用されていく空閑地

やすらぎのある農地をはぐくむ



現状



富田さとにわ耕園 シバザクラ



下田農業ふれあい館 農産物直売所



中田やつ耕園 市民農園



千葉ウシノヒロバ

主な施策

拠点施設の活用などによる農の魅力発信 環 防 景 健

富田さとにわ耕園・下田農業ふれあい館・中田やつ耕園の3拠点施設を活用し、花畑や地元農産物の直売所、収穫体験などを通じて、千葉市内外からの集客を図るとともに、内陸部におけるグリーンツーリズムの取組を進めます。

優良農地の保全の推進 環 防 景 健

千葉市の東部に集積する農地は、農振農用地として農業生産上だけでなく、農地の有する多面的な機能発揮の面からも重要な役割を果たすため、緑と水辺の骨格に位置するこうした優良農地の保全を引き続き進めます。



耕作やグリーンツーリズムが行われていく農地

いきいきとした谷津田・森林をはぐくむ

現状



主な施策

谷津田や里山の保全の推進

環 防 景 健 コ

千葉市の原風景である谷津田において、谷津田保全団体をはじめ、多様な主体と協力して、田んぼづくりや湿地、生態系の保全などを引き続き進めます。良好な里山環境が維持保全されている里山地区においても、森林所有者と森林ボランティアなどの協力により、森林の保全を引き続き進めます。

樹木の生育基盤となる

土壌環境(土中環境)の育成

環 防 景 健 コ

土壌環境(土中環境)の育成は、樹木の健全な成長につながり、森林の様々な機能の向上が期待できるため、昭和の森などにおける土壌環境(土中環境)育成の取組について、成果を踏まえ、その他の地域への展開を検討します。



管理に携わる人々が増え、多様な生き物が生息している谷津田

緑と水辺に関わる人や場所をはぐくむ

主な施策

デジタル技術やデータを活かした 緑と水辺のまちづくり

環 防 景 健 コ

緑と水辺のまちづくりの様々な側面にデジタル技術を取入れ、維持管理の効率化、データ蓄積・情報提供の充実、新たな市民サービスの提供などを図ります。

緑と水辺のまちづくりに関わる人づくり

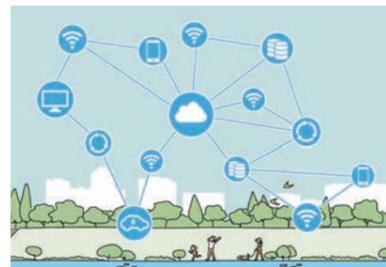
環 防 景 健 コ

緑と水辺のまちづくりに関わる人々の活動意欲が向上するよう活動者を積極的に表彰します。これと併せて、新たな担い手として、行政の業務領域をもカバーしうる中間支援組織の発掘・育成を検討します。また、大学や研究機関などによる緑と水辺の各フィールドにおける社会実験について、積極的な受入れを図ります。

シームレスな空間形成の推進

環 防 景 健 コ

地域の状況に応じて、周辺環境とシームレスに溶け込むような緑と水辺の環境形成を図ります。また、公園樹木の大径木化によって周辺空間との心理的・物理的な隔りが生じている場合には、公園利用を促進させ、大多数の方に納得していただけるような空間形成について、地域の住民との対話を踏まえながら検討します。



デジタル・トランスフォーメーションが進む緑と水辺のまちづくり



シームレスな空間形成

6 計画の目標

緑と水辺の各フィールドにおける各種取組を総合的に実施した成果として、本計画のづくりに基づき、成果指標(中間目標含む)を6つ設定します。

【グリーンインフラの5つの効用】 環 環境 防 防災 景 景観 健 健康 コ コミュニティ

指標	令和5年度 (2023年度) 現在	令和9年度 (2027年度) 現在	令和14年度 (2032年度) 現在	備考
「緑と水辺に関わる人々」が目指す姿				
緑と水辺のまちづくり活動の表彰数 健 コ	—	受賞数5 期間内累計	受賞数10 期間内累計	計画期間の始期の 令和5(2023)年度 からカウント
緑と水辺のまちづくり活動への参加度 健 コ	29.6%	40.0% +約10%	50.0% +約20%	当初調査時点は 令和4(2022)年度
「近隣レベル」で目指す 緑と水辺の姿				
緑が豊かだと感じる 市民の割合 環 防 景 健 コ	77.8%	81.0% +約3%	85.0% +約7%	当初調査時点は 令和3(2021)年度
水辺が魅力的だと感じる 市民の割合 環 防 景 健 コ	48.3%	55.0% +約5%	60.0% +約10%	当初調査時点は 令和3(2021)年度
「全市レベル」で目指す 緑と水辺の姿				
緑被率 環 防 景	48.6%	現水準を保つ (±1%)	現水準を保つ (±1%)	当初調査時点は 令和2(2020)年度
大規模公園の利用者数 景 健 コ	292万人	307万人 +5%	321万人 +10%	当初調査時点は 令和3(2021)年度

7 計画の推進と進行管理

- 緑と水辺の各フィールドで展開する具体的な施策については、基本的には千葉市の実施計画(計画期間を3年とする、基本計画で示したまちづくりの基本方針の実現に向けた具体的な取組を示すもの。)に位置付け推進します。
- 各種施策の検討や推進にあたって、市民、団体、事業者などに意見聴取をしながら進めます。これと併せて、新たな制度設計などの段階では、研究が必要なものもあるため、専門性を有する学識経験者などをアドバイザーとして、意見聴取ができる体制づくりを進めていきます。
- 目標や施策の基本的な方向性に基づく個別施策の進捗状況については、計画期間の概ね中間的な年次に達成状況や進捗状況を把握し、必要に応じて、目標値や基本的な施策の方向性について、見直しを実施します。

緑と水辺の都市宣言

私たちは、生命をはぐくみ文化を支える緑と水辺に恵まれた美しい環境のなかに住みたいと願う。

千葉市は、東京湾の水辺と下総台地に広がる豊かな緑に囲まれ、縄文の昔から、恵まれた自然環境のなかで、健やかで活力に満ちた生活が営まれてきた。

私たちは、この千葉市に住むことを誇りとし、都市づくりの総てにわたって、自然との調和を求めつつ、この緑と水辺を千葉市の個性にまで高め、これを次代に引き継ぎたいと思う。

このため、市民の総力をあげて、豊かな緑ときれいな水辺の都市づくりをすすめることを誓い、ここに、私たちの郷土千葉市を「緑と水辺の都市」とすることを宣言する。

昭和59年(1984年)10月20日

